

第 62 回リンドウ・ノーベル賞受賞者会議(物理学関連分野) 参加報告書

所属機関・部局・職名: 東京工業大学大学院総合理工学研究科 日本学術振興会特別研究員(PD)

氏名: 坂田 綾香

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

今回参加されていたノーベル賞受賞者の方々は、ノーベル賞受賞までの研究の道のり、受賞後の研究や発表スタイル、どれをとっても一人ひとりが異なっていました。特に面白く感じられたのは、ノーベル賞受賞後の身の振り方の多様さです。受賞後も引き続き第一線で研究をされている方、環境問題や地球温暖化、エネルギー問題に対する活動を始められた方、また精神の研究へと活動の場を変えられた方など様々でした。しかし各々の興味の対象について探求し、熱のこもった発表をされていたという点は皆さんに共通していました。

ノーベル賞受賞者の講演を一度にたくさん聞くことで、受賞者の方々の講演を比較しながら楽しむことができ、それぞれの個性や共通点が顕わに感じられて面白かったです。一般的な学術会議とは趣が異なり、普段聞けないような研究哲学に触れられました。

印象に残ったノーベル賞受賞者の講演として、John C Mather、Brian Josephson の講演があげられます。

John Mather 博士は COBE による宇宙マイクロ波背景放射に関する研究で 2006 年にノーベル賞を受賞されました。Mather 博士の講演は非常に洗練されていて、私が想像するアメリカ人研究者の発表そのものでした。前半では博士の子供時代から研究生活に入られるまでの生い立ちについて触れられ、後半では受賞対象となった研究について説明されていました。印象に残ったのは、Mather 博士は自身の博士論文の研究において、大きな成果を上げられず失敗に終わったという話です。しかし何としても続けると言う強い意志で研究を続け、最終的にストックホルムに行くことが出来た、とおっしゃっていました。自身の研究について、人生でこれをずっとやり続けてきた、と語られていました。その姿から、続けることの大切さを感じました。

Brian Josephson 博士の講演は、ある意味非常に衝撃的で強く印象に残りました。物理と精神を繋ぐ理論についての講演でしたが、私には彼の研究方針、主張とも理解が出来ませんでした。ほとんどの物理学者が疑問の目で見ていると思いますが、そんな状況の中でも自分の主張を貫き、黙々と研究している意志の強さは見習うべきかとは思いました。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やボート・トリップ等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

講演以外の時間は、ノーベル賞受賞者がそのほかの参加者に混ざって、コーヒーを受け取る列やお手洗いに並んでいたり、また近くで議論が行われたりしており、その光景は非常に不思議でした。

議論において印象に残ったのは、David Gross 博士です。Gross 博士は非常に紳士的で、突然話しかけられても、相手をテーブルに誘い、一人ひとりに時間を割いて丁寧に説明してくださり、大変感動しました。

インフォーマルな交流を通して、ノーベル賞受賞者の方々はダンスや音楽などの分化に非常に造詣が深い方が多いということを感じました。世界で活躍するにはこういった教養や、日本の伝統的な文化の知識を身につけることも大事だと実感しました。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

リンダウ会議では、受賞者の講演に加えてインフォーマルな雰囲気で行われる様々なイベントが企画されていました。それらイベントを通して、各国からの参加者と様々な話をしました。日本国外だと主に中国、台湾、マレーシア、インド、シンガポール、スイス、ドイツからの参加者と主に交流しました。アジア圏からの参加者は、修士課程・博士課程の学生の割合が高いように感じられました。

参加者のみなさんはとても自信を持ってお話をされているのが印象的で、積極的に自分の意見を述べていました。各国の若手研究者が置かれている状況や、将来どのようなポストでどのような研究をしていきたいか、具体的な話もしました。皆さんは将来に対して非常に見通しを持っておられるようで、刺激を受けました。また日本での研究活動を視野に入れている人にも何人かで会いました。条件面で日本での研究を魅力的に感じている方々がいらっしゃるようなので、優秀な若手研究者が海外から来てくれるように、私も日本の研究者として頑張らなくてはと思いました。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

日本からの参加者の皆さんとは、今回の会議で初めてお会いする方々がほとんどでした。みなさんとても積極的で、それぞれの分野で精力的に頑張っているということがよくわかりました。また他分野の動向にも非常に敏感で、いろんなところにアンテナを張ることの大切さを感じました。自分の将来に対してとても意欲的で、見習わなければならないことがたくさんあると感じました。様々な話を通して親睦を深めることができました。

5. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット、具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載すること。

リンダウ会議は、一般的な専門性の高い国際会議とは異なり、様々な分野の研究者が参加します。したがって、異なる分野の方々に自分の研究を説明することが必要となります。この機会を通して、自分自身の研究について今一度見直し、分かりやすい言葉で説明することを学びました。

また、偶然にも本会議で、私が携わる研究分野と非常に近い分野の方と知り合うことが出来ました。今後、研究についての議論が進展させられるように努力していきたいと考えています。

6. リンダウ会議への参加を通して得られた以上の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

本会議を通して感じたのは、自分なりの研究を確立することの重要性です。今回の経験を通して、様々なノーベル賞受賞者や若手研究者の研究観に触れることが出来ました。自分の研究観を深めながら研究をしていくことが大事だと感じました。そのような研究をするためのきっかけが今回の会議で得られたのではないかと思います。

7. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージがあれば記載すること。

非常に良い機会だと思いますので、積極的に参加されることをお勧めします。